

スクールカウンセラーだより 5

2学期の目標をどのように考えたでしょうか

子どもたちが、目標を立てるとき、大きな目標を立てる事も良いですが、その大きな目標に向かうために、最初の小さな一歩を踏み出すための目標が大切になります。

大リーグで活躍している大谷翔平選手の「大谷翔平の目標達成シート」というのが有名ですが、(ネット上にも出ています)。そこには今できる小さな一歩を大切にしています。

学校に行けない子どもをすぐに教室に戻るという事を目標した場合、そこに至るまでに今できる事を(子どもの立場に立って)考えることが大切になりますが、子どもによっては、大きな目標に行くまでの手立てが抜けていることもあります。

まずは今、何ができるかを一緒に考える事が大切ですね。

見ておいで

2学期が始まり、少し友だちトラブルが生まれることもありますね。特に3, 4年生あたりはトラブルが多くなると思います。3, 4年生は友達といろいろな事をチャレンジしたくなる時期ですが、まだ解決方法をたくさん知らないからです。

そんなとき、大人が「～をすればいいんじゃないかな。」(自分から友達に声を掛けたらよいのではないかな 等)などの、アドバイスをすることは非常に大切で、アドバイスの中で、自分なりの方法を見つけていくことができます。

ただし、アドバイスが、その状況に合わないこともあるかもしれません。また、自分で考えた方法ではないので、思うようにできないこともあるかもしれません。

そんな中で「まわりの友だちはどうやっているかな。見てきてごらん。」(みんなは友達の中にどうやって入っているかな? 見てきてごらん。そして、それを真似たら良いんじゃないかな。)という方法で考えさせることも方法です。

直接、アドバイスをすることも必要ですが、周りを見て「自分なら何ができるかな」を意識して行動を考えさせる(考えて行動する)という事も大切ですね。

直接的なアドバイスではなく、考えさせるという感じです。当然、見てきたものを自分なりに考え、行動するにあたっては、大人のアドバイスも必要になることもありますね。

全てを教えるのではなく、自分なりに考えることが大切で、その為にまわりを見させ、友達はどんな風な行動をしているのかを意識させていくことも大切だと思います。そして、考えられたときには、その行動を応援してあげたいですね。

子どもの自立と信頼関係

子どもの発達を考えたとき、幼児期から小学校低学年までは大人の周りで「君は大丈夫だよ」というメッセージを貰いながら安心して行動できることが大切になります。

そして、その安心した思いをベースにし、人への興味が広がり、友達との関係を高めようと行動するようになります。そこでトラブルが起きやすくなりますが、そのトラブルは学びのチャンスになります。

前の文章に書きましたが「友達はどうしているか見ておいで(周囲を見て気づく)」や「君はこうしたほうが良いと思う(言葉による大人のアドバイス)」という形で、自分はどうしたら良いのかを気づかせていく事が大切になります。

そして、高学年になり、自分らしさを基に自立した行動ができるようになってきます。そこで子どもたちは、安心の中で、自分で考えた方法で様々な事にチャレンジし、自立しようとしてきます。ここで大切な事はチャレンジしようとしている姿を見守ろうという姿勢かもしれません。

子どもが親から離れ、自立に向かうとき、親としては心配したり、不安になったりするのとは当たり前です。ただし、心配が大きくても、子どもを信頼し、自分で考えて行動させてみることも大切だと思います。まわりの大人が行うことは、失敗したときに「帰ってくる場」「充電できる場」を作っておくことだと思います。

SOSを出せる子に・・・

高学年から中学校にかけて、子ども達は様々な悩みが生まれますが、そこで適切なサポートを受けるために、自分からSOSを出せる子はあまり多くはありません。助けを求められずに悩み続けている子は多いです

自分からSOSを出せる子は、適切なサポートを受けた経験がある子という報告もあります。

低学年や中学年のときの様々なトラブルのときに、大人に話を聞いてもらえたり、解決の方法についてアドバイスをもらえたりなどの経験があると、自分から悩んだり、困ったりしたとき自分からSOSを出し、アドバイスをもらおうと行動することができるようになります。また、SOSを出すためには、自分が何に困っているかを考える力(自己理解力)も重要になりますが、それも日常の会話の中で、子どもの良いところ、苦手なところなどを話してあげる事が大切になりますね。

今がいかに充実しているか

過去のいじめられ体験など、辛い思いを受け入れられるのは「今が楽しい」「今が充実している」ことがポイントになります。その為には大人が子どもの立場に立ち、今の生活が充実しているか、充実するためには何が必要か(ゲームをしているときに充実しているという子もいますが、本当に充実しているとは限りません。何もなければゲームをしているだけなのかもしれませんよ。)を確認するのがポイントになります

過去に幼稚園で悲惨ないじめられ体験を受けた子どもがいました。小学校に入っても友達とトラブルになることもありました。そのとき、まわりの大人が丁寧にかかわりを持つと、少しずつ自分のことを話すようになってきました。学校でも先生たちが子どもの特性をうまく活かせるように活動の場面を工夫し、充実した毎日を送れるよう頑張ってくれました。そこで幼稚園の悲惨ないじめ体験を話せるようになり、楽しい学校生活を送れるようになっていきました。苦しい過去は変えられません。そこを超えて前向きに生きていくためには、今が楽しくなければならぬと考えます。